

河川水域に生息する希少種 “台湾ヒライソモドキ”



台湾ヒライソモドキとは？

甲羅の幅が10数mmの小型のイワガニ科のカニで、河川汽水域潮間帯の転石下に生息し、大阪湾から台湾まで記録がありますが、まとまった個体群としては、和歌山県の紀の川が北限であると考えられています。世界自然保護基金日本委員会(WWF-japan)が発行した「日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状」(通称:干潟レッドデータブック)において、「希少種」に指定されています。



台湾ヒライソモドキ
Ptychognathus ishii



紀の川での取り組み

和歌山県の紀の川では、既存の固定堰を取り壊して、その下流側に新たな可動堰を建設する紀の川大堰建設事業が進行中です。ところが、現在の台湾ヒライソモドキの生息地が、新たな可動堰の上流側にあり、堰運用後は淡水化により生息できなくなることが明らかになったため、堰の下流側に新たな生息地を造成することを主眼とした保全対策が実施されることになりました。

まず、生態のほとんど分かっていない台湾ヒライソモドキについて、生息環境や他種との関係などについて、調査・研究を行いました。次に、その調査に基づいて、試験的に小規模な場所での人工生息地の造成及び個体の移植を行い、その後の推移について追跡調査を実施しました。

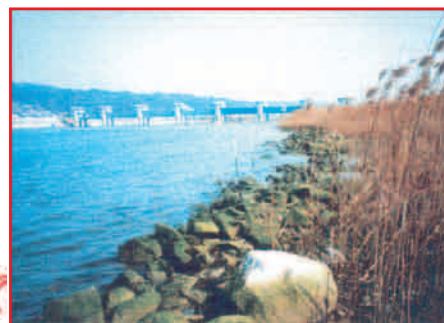
その結果、移植した個体の定着および繁殖、次世代の個体の加入が確認され、人工的に新たな生息環境を創造することがある程度可能であることが実証されました。

現在は、その試験結果に基づき、より広範囲での代替生息地の造成および個体の移植を行い、その後の変化についてモニタリング調査を継続しているところです。

河川汽水域に生息する希少底生生物についてのこのような取り組みは全国的にも例がなく、紀の川での取り組みが、他の河川における環境保全対策についての参考事例となるものと期待しています。



旧来の台湾ヒライソモドキ生息地



造成した代替生息地



(なお、この業務は平成10年～13年度に、国土交通省近畿地方整備局より委託を受けて行っているものであり、平成12年度には優秀建設技術者の表彰を受けております。)

(生態解析グループ 野元彰人)